



マルマス循環式精米機

マスペットGL-1A型

取扱説明書



この度は、マルマス循環式精米機
“マスペットGL-1A型”
をお買い上げ頂き
厚く御礼申し上げます。

ご使用まえには
必ず(取扱説明書)を熟読され
末長くご愛用ください。

なお、不明瞭な点がありましたら
販売店もしくは当社宛てに
お問い合わせください。



警告

◎この取扱説明書を熟読され十分に理解された上で、本機の操作及び保守・点検を行ってください。

◎この取扱説明書を本機の操作及び保守・点検を行う場合にいつでも見られるように大切に保管してください。

マルマス機械株式会社

重要なお知らせ



- ◎この機械の操作及び保守・点検を行うときは、必ずこの取扱説明書に従ってください。
- ◎この取扱説明書に従わなかったため、あるいは誤用や無断改造がなされたために怪我を負ったり、損害が発生したとしても、当社及び販売会社は一切その責任を負いません。

- 1) 近年農業機械には新しい材料や加工方法の採用により、さまざまな危険が数多く発生する傾向にあります。
この機械の取扱上の危険についても、すべての状況を予測することはできません。
そのためこの取扱説明書の記載事項や機械に表示してある注意事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。
従って機械の操作または日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載及び機械本体に表示されている事項に限らず、安全対策に関しては十分な配慮が必要です。
- 2) この取扱説明書について質問やより詳しい情報が必要な場合は、当社又は購入店にお問合せください。
- 3) この取扱説明書において、万一ページの乱丁や落丁などがあつた場合は、お取り替えいたしますのでお手数ですが当社又は購入店までご連絡ください。



- ◎この機械の操作及び保守・点検を行うときは、必ずこの取扱説明書の指示・警告に従ってください。
もし疑問点又は不明な点がございましたら、当社又は購入店にお問合せて回答を得るまで作業を進めないで下さい。

目 次

1.危険防止のために

1-1 警告用語の種類と意味	1
1-2 本機の仕様にあたっての諸注意	2
1-3 警告ラベルの貼付位置(1)	4
1-4 警告ラベルの貼付位置(2)	5

2.ご使用になるまえに

2-1 本機各部の名称と説明	6
2-2 主要部品表	7
2-3 本機の仕様	8
2-4 本機の据え付けについて	9
2-5 電気配線について	10

3.運転方法

3-1 試運転のときに	11
3-2 運転の仕方(1)	12
3-3 運転の仕方(2)	13
3-4 精米のしかた	14
3-5 粳搗精白のしかた	15

4.運転後の取扱い

4-1 点検、掃除	16
-----------------	----

5.不調な時の原因と対策




5-1 不調な時の原因と対策	17
----------------------	----

1.危険防止のために

1-1 警告用語の種類と意味

◎危険防止のために、本機の危険な箇所には警告ラベルを貼付してあります。
この警告ラベルでは危険度の高さ(又は事故の大きさ)に従って、次の3段階に分類しています。

以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容(指示)に従ってください。







 危険	切迫した危険な状態を示し、手順や指示に従わないと死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
 警告	存在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
 注意	存在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと中・軽傷を負う場合、機器・機械が損傷する場合又は原料や製品に不具合が生じる場合に使用されます。

警告

危険防止のために危険な箇所には危険・警告・注意の各ラベルが貼付してあります。
このラベルの注意書きを必ず守って作業を行ってください。
守らずに作業をしますとケガをする場合があります。
また、各ラベルが剥がれたり、読みづらくなった場合は、即座に新しいラベルと交換し、同位置に貼り付けてください。
新しいラベルは当社にて準備しております。(ラベルは有償となっております)

1.危険防止のために

1-2 本機の使用にあたっての諸注意

 注 意	作業を行う前には必ず取扱説明書を熟読され、本機を把握してから取扱説明書に従って作業を行ってください。 本機の性能を充分発揮出来ず安全上支障をきたすことがあります。
 警 告	本機を設置する際は、準備作業を必ず取扱説明書通りに実施し、本機の周りには決して過熱性の物・電氣的な高容量物コンプレッサー等のノイズ発生物などの危険な物は置かないようにしてください。 本機に悪影響を与え、安全上支障をきたすことがあります。
 警 告	危険防止のために、危険な箇所には危険・警告・注意の各ラベルが貼付してあります。 このラベルの注意書きを必ず守って作業を行ってください。 守らずに作業をしますとケガをする場合があります。 また、各ラベルが剥がれたり、読みづらくなった場合は、即座に新しいラベルと交換し同位置に貼り付けてください。 新しいラベルは当社にて準備しております。(ラベルは有償となっております)
 警 告	当社に無断で本機を改造したり、取り付けられているものを外したり加工をほどこし、本機と関係のない物を取り付けたりは、絶対にしないでください。 本機の性能を充分発揮出来ず安全上支障をきたすことがあります。
 警 告	使用頻度に合わせて本機の点検・清掃は必ず行ってください。 本機の性能を充分発揮出来ず、安全上支障をきたすことがあります。 また、点検・清掃を行う場合は必ず元電源を切ってから作業してください。 守らずに作業しますとケガをする場合があります。
 警 告	本機を使用する場合の電気工事に関しては、電気工事有資格者又は電気工事資格店にて本機の取扱説明書内に記載されている基準を十分満たす工事を実施すること。 自分で勝手に工事はなさないでください。 本機に悪影響を与え安全上支障をきたすことがあります。 又、既存の動力配線をお使いになる場合は本機の基準に適合していることを確認後、本機を使用してください。


1.危険防止のために

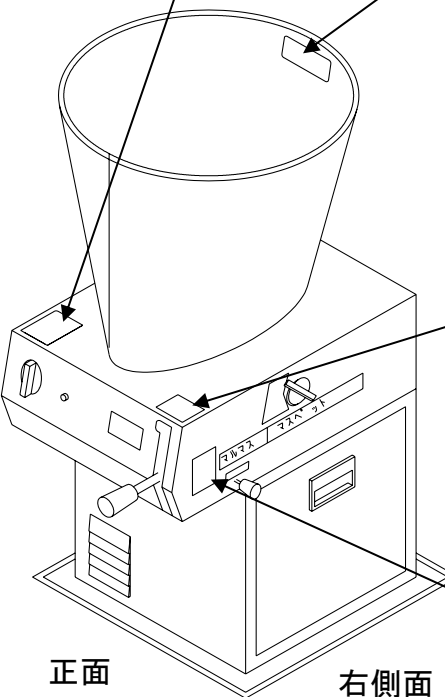




 注 意	<p>本機の御使用后、及び保管の際には必ず、電源プラグをコンセントから抜いてください。 感電・漏電・火災の原因となります。</p>
 注 意	<p>水のかかる場所や火気の近くでは使用しないでください。 感電・漏電・火災の原因となります。</p>
 注 意	<p>電源プラグを抜く場合は、電源コードを持たずに必ず電源プラグを持って引き抜いてください。 感電や発火する場合があります。</p>
 警 告	<p>改造はしないで下さい。また、修理技術者以外の方は分解や修理をしないでください。 火災・感電・ケガの原因となります。</p>
 警 告	<p>本機を水につけたり、本機に水をかけたりしないでください。 ショート・感電の恐れがあります。</p>
 警 告	<p>電源プラグの刃(プラグ先端)及び刃の取り付け面にほこりが付着している場合は、よく拭き、ほこりを取り除いてください。 火災の原因となります。</p>
 警 告	<p>電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるい場合は本機を使用しないでください。 感電・ショート・発火の原因となります。</p>
 警 告	<p>指定の電源以外では使用しないでください。 火災・感電の原因となります。</p>
 警 告	<p>電源コードを傷つけないでください。 無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、高温部に近づけたり、重たいものを載せたり、挟みこんだり、加工した場合は、電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。</p>
 警 告	<p>電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込んでください。 感電・ショート・発煙・発火の原因となります。</p>

※上記以外の注意点及び詳細は各作業内容に合わせて記載してあります。よく熟読され、必ず守ってください。

1.危険防止のために

1-3 警告ラベルの貼付位置(1)

 警告	<p>危険防止のために、危険な箇所には危険・警告・注意の各ラベルが添付してあります。</p> <p>このラベルの注意書きを必ず守って作業を行ってください。守らずに作業をしますとケガをする場合があります。</p> <p>又、各ラベルがはがれたり、読みづらくなった場合は即座に新しいラベルと交換し、同位置に貼り付けてください。新しいラベルは当社にて準備しております。</p>
---	---

 <p>正面</p> <p>右側面</p>		ラベルの説明
	<p>点検、修理の際、本機伝動部・操作部が作動しているとこれらに接触するとケガをします。また停電が復旧した場合に、本機が急に作動したりして、思わぬ事故を招くことがありますので、点検、修理、及び停電の時は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。</p> <p>(注文コード 260-410-11)</p>	
		ラベルの説明
	<p>タンクないの下部には、回転部があります。運転中にこれらに手で直接接触するとケガをしますのでタンク内の掃除や、なんらかの理由で、手を入れるときは必ず運転を停止して、電源プラグをコンセントから抜いてください。</p> <p>(注文コード 260-419-10)</p>	
		ラベルの説明
<p>運転前に、必ず取扱説明書を読んで、操作装置の位置とその機能をよく理解してから運転してください。</p> <p>(注文コード 260-433-11)</p>		
		ラベルの説明
<p>運転中、回転しているロールにさわるとケガをしますので、運転中は白米出口に、絶対に手を入れないでください。</p> <p>(注文コード 260-402-11)</p>		

1.危険防止のために

1-4 警告ラベルの貼付位置(2)

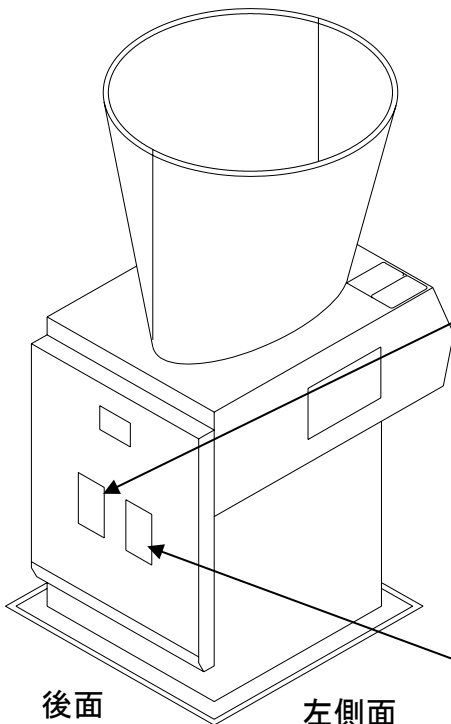


警告

危険防止のために、危険な箇所には危険・警告・注意の各ラベルが添付してあります。

このラベルの注意書きを必ず守って作業を行って下さい。守らずに作業をしますとケガをする場合があります。

又、各ラベルがはがれたり、読みづらくなった場合は即座に新しいラベルと交換し、同位置に貼り付けてください。新しいラベルは当社にて準備しております。



後面

左側面



ラベルの説明

後カバーを開けると、伝動部があります。運転中にこれらに手で直接接触すると、ケガをしますので後カバーを開けるときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
(注文コード 260-400-11)



ラベルの説明

本機内部には、電気配線が施されています。通電中に配線部に手で直接接触すると感電する恐れがありますので、点検、修理などで本機内部に手を入れる場合は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
(注文コード 260-412-11)

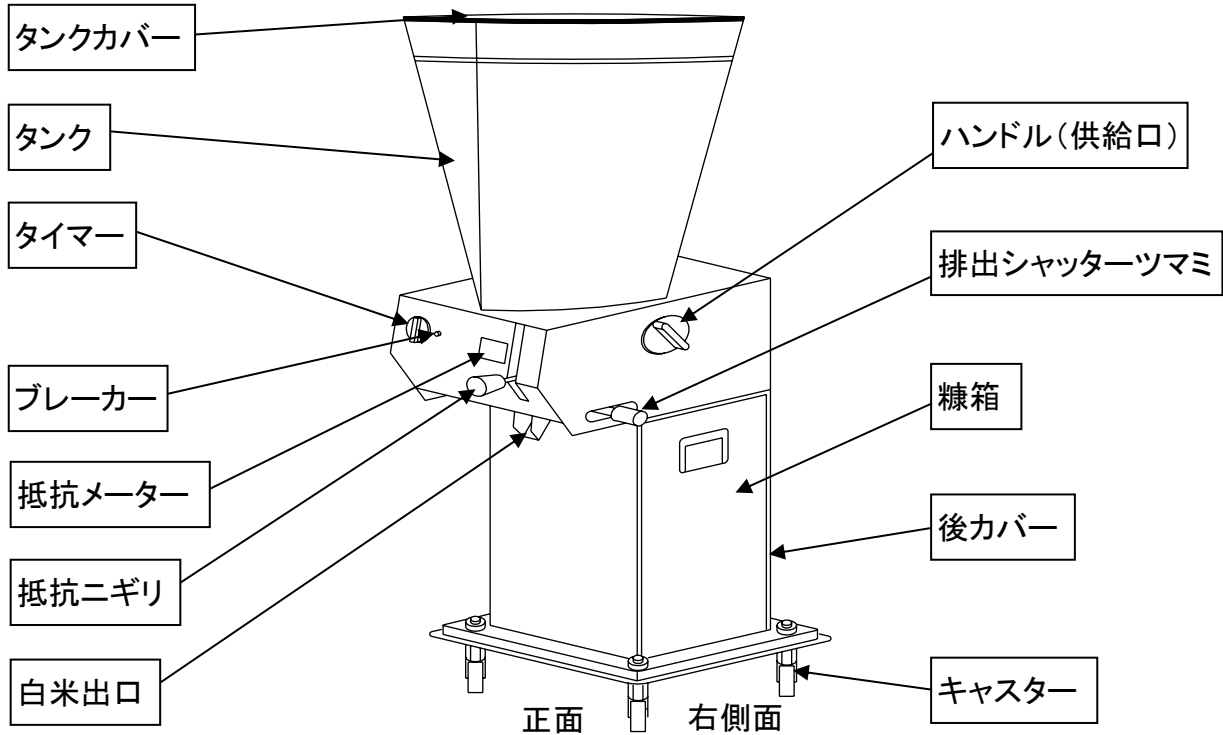
2.ご使用になるまえに

2-1 本機各部の名称と説明



注意

ご使用前には必ず取扱説明書を熟読され、本機の性能及び装置を充分理解したうえでお取り扱いください。



名 称	用 途 及 び 説 明
タイマー	本機の運転, 停止, 及び精米時間の設定をする時に使います
ブレーカー	過負荷時に作動します
抵抗ニギリ	標準米, 軟質米, 硬質米など、お米の種類によって調節します
抵抗メーター	主抵抗レバーの調節具合の確認する時に使います
白米排出ツマミ	タンク内のお米を排出する時に使います
ハンドル(供給口)	玄米, 粳に合わせて、供給口への循環量を調節する時に使います
糠箱	精米, 粳搗精白中に、糠等がたまります
タンクカバー	作業終了時に、タンク上部にかぶせて、タンク内の汚れを防止します

注 意
 詳細な使い方については、各作業内容に合わせて記載しております。

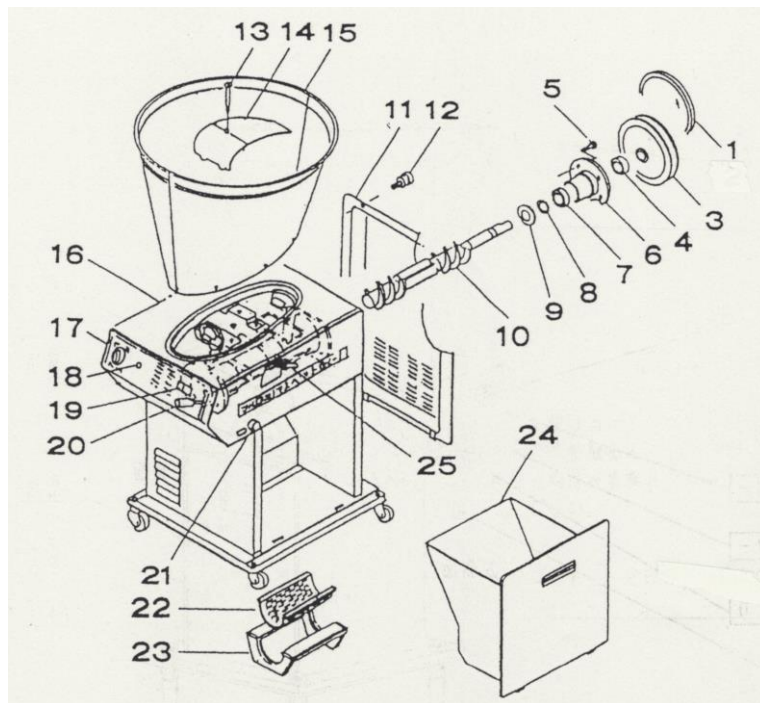
2.ご使用になるまえに

2-2 主要部品表



注意

ご使用前には必ず取扱説明書を熟読され、本機の性能及び装置を充分理解したうえでお取り扱いください。



製品分解図

品番	名称	数量	備考	品番	名称	数量	備考
1	Vベルト A-39	1		14	上部板	1	
				15	タンク	1	
3	主プーリー	1	φ150	16	上カバー(組)	1	
4	ベアリング	1	6203 ZZ	17	タイマー	1	
5	六角ボルト(SW付)	4	M6×20	18	ブレーカー	1	
6	主軸受ケース	1		19	抵抗メーター	1	
7	ベアリング	1	6203 2NS	20	抵抗ニギリ	1	
8	主軸座金(小)	1		21	排出シャッターツマミ	1	
9	主軸座金(大)	1		22	除糠アミ	1	
10	ロール	1		23	アミ枠	1	
11	後カバー	1		24	糠箱	1	
12	後カバー止ネジ	2		25	ハンドル	1	
13	クラボルト	1	M8×75				

2.ご使用になるまえに

2-3 本機の仕様



注意

ご使用前には必ず取扱説明書を熟読され、本機の性能及び装置を充分理解したうえでお取り扱いください。

本機の仕様

		仕 様
項目	機種	GL-1A型
毎時能力		玄米35～45kg/h
外形寸法		幅54 × 奥行59 × 高さ103 cm (キャスター付)
タンク容量	粳重量	20kg (2斗)
	玄米重量	30kg (2斗)
本機重量		43kg
モーター		2コンデンサー型 450Wモーター
使用電源		単相100V
毎分回転数		760～900rpm
安全装置		過負荷保護ブレーカー(サーマルプロテクター)内蔵

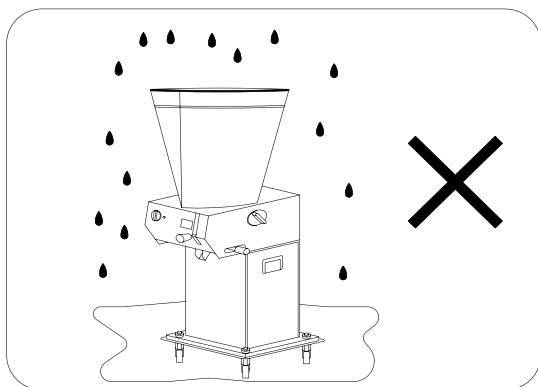
2.ご使用になるまえに

2-4 本機の据え付けについて



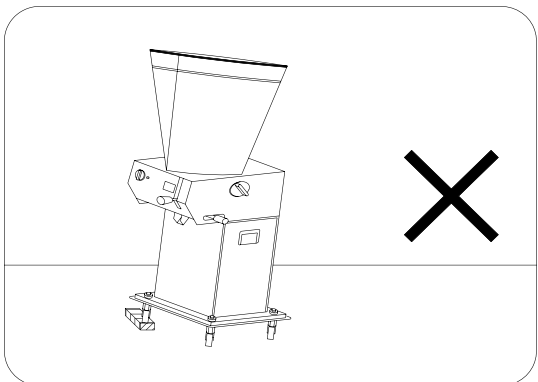
注意

作業を行う前には必ず取扱説明書を熟読され、本機を把握してから、取扱説明書に従って、作業を行ってください。
本機の性能を充分発揮できず安全上支障をきたすことがあります。
作業する際には身の回りに充分気を配り、ケガをしないように注意してください。



注意

据え付けは、湿気のないところをお選びください。本機の性能が充分発揮できないばかりでなく、本機内部にはモーターをはじめとして、電装部品が組み込まれておりますので、水等が入ってくると、漏電により感電する恐れがあります。

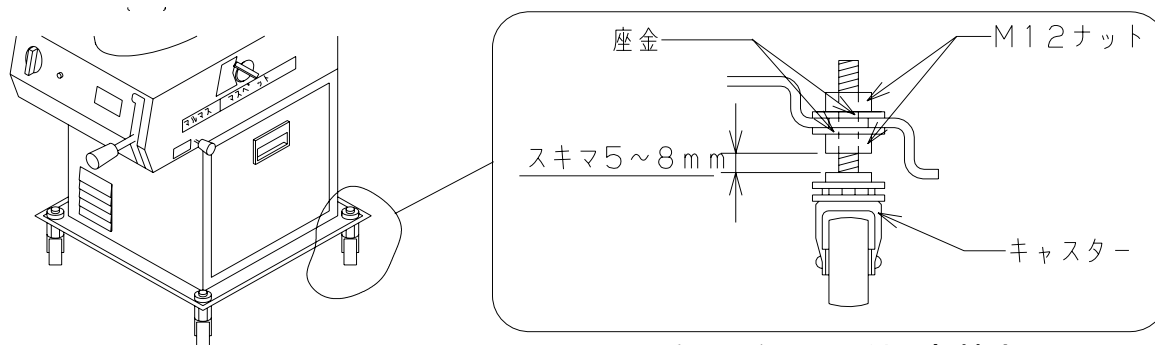


注意

据え付けは、水平になる様にしてください。本機を傾いたままで使用されますと、むら搗や片流れの原因となります。

キャスターの取り付けについて

- ◎ キャスターの取り付けは、下図の要領でおこなってください。
又キャスター下部のスキマは、一般に5mm程度で4ヶ所同一寸法にしてください。



キャスター取り付け部拡大図

2.ご使用になるまえに

2-5 電気配線について

GL-1A型(单相100V 450Wモータ内蔵)

既存の電源コンセントをしようされる場合

- ◎ 本機の電源プラグを100V動力配線の電源コンセントに接続してください。
- ◎ 電源ブレーカーが15A以上であることを確認してください。



注意

配線する場合は、電源を電灯線から取ったり、タコ足配線をしたり、コードリール等の長い線(細い線)を使用しないでください。電圧降下の原因となり、本機の性能が充分発揮出来ないばかりでなく、火災の原因ともなります。

- ◎ 精米機の過負荷によるモーターロック状態を防ぐために下記にご注意ください。
 - 1) 必ずシャッターを閉め、抵抗を「0」にしてからタイマーを入れてください。
 - 2) 必要以上に、抵抗をかけない。

新たに、電源コンセントを新設される場合



注意

電気工事に関しては、電気工事資格者または電気工事資格店にて本機の取扱説明書に記載されている基準を十分満たす工事を実施すること。また配線に関しては電気設備技術基準内線規定および電力会社の規定に従ってください。

- ◎ 電源ブレーカーは15A以上をご使用ください。

その他の注意事項



注意

運転中停電した場合は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。電源が復帰したときに、本機が知らぬ間に、作動したりして思わぬ事故を招くことがあります。

3. 運転方法

3-1 試運転のときに

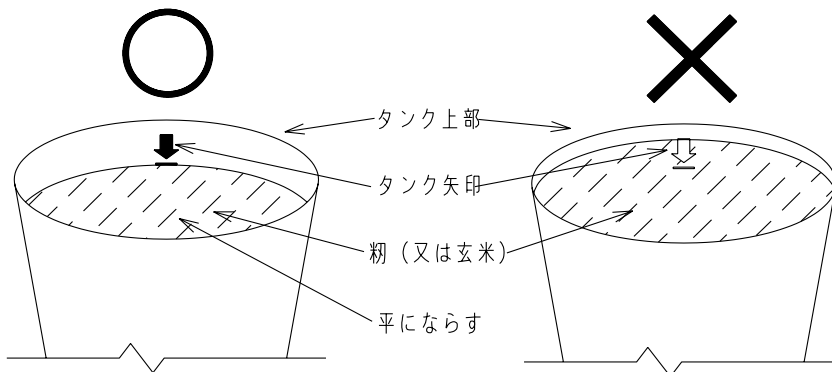


注意

作業を行なう場合、身の回りには充分気を配り、可動部には絶対に接触しないようにしてください。安全上支障をきたす場合があります。

試運転のしかた

- (1) タンク内のスベリ具合を確認してください。
 - ・はじめにタンク内の上部板等の米の流動部は、米糠等で良くふき取り、米をすべりやすくしてください。
- (2) ハンドル(供給口)を閉「0」の位置にして、タンク内に玄米または、粳を張り込んでください。
 - ・タンク内のタンク矢印まで、玄米または、粳を張り込んでいただくと、玄米30kg(2斗)、粳で20kg(2斗)まで張りこめます。またタンク矢印をこえるまで張り込んだり、平らにならさなかつたりすると、ムラ搗や、片流れの原因となります。



- (3) タイマーを回して、始動させ玄米、粳にあわせて、ハンドル(供給口)を開けてください。
- (4) 抵抗ニギリを操作して、抵抗をかけ、抵抗メーターを確認してください。

抵抗メーターの見方

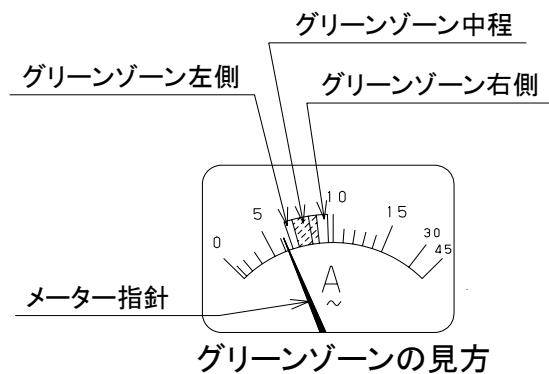
玄米精白のときの標準的な抵抗レバーの取扱いを下表に示します。

標準米→グリーンゾーンの中程又は左側
軟質米→グリーンゾーン左側
硬質米→グリーンゾーン中程又は右側

新米時は若干弱めとする。

抵抗レバーを調整して上表に合わせる。

- ※ 新品の時は負荷をかけなくても、抵抗メーターの針がグリーンゾーン内に入ることがあります。但し、機械の故障ではありません。指針許容量は±5%です。グリーンゾーンを目安に精米してください。



参 考

普通、玄米水分が15%前後のものを標準米、16~17%のものを軟質米(高水分米)、13%以下のものを硬質米(過乾燥米)といわれております。また新米時は、収穫されてから1ヶ月くらいまでの時期をさします。

3. 運転方法

3-2 運転の仕方(1)



注意

作業を行なう場合、身の回りには充分気を配り、可動部には絶対に接触しないようにしてください。安全上支障をきたす場合があります。

粳搗精白のしかた

- (1) 排出シャッターつまみを閉めて、ハンドル(供給口)を全開にする。
- (2) 抵抗を「0」として、10分～15分程、脱ぷを行なってください。
注意: 10～15分程、脱ぷを行なった後、一度運転を止めて、糠箱にたまった粳がらを、糠箱から取り除いてください。
- (3) 粳が80%程度取れるまで、行なってください。
- (4) 粳が80～85%取れたところで、玄米精白と同じ要領で、抵抗を加えグリーンゾーンに合わせて仕上げの精白を行なってください。

モチ米精白のしかた

- ・モチ米の場合は、通常の玄米精白と同じ要領で、抵抗をかけて運転を行ってください。ただし、モチ米の場合、通常の玄米精白に比べて、時間が長くかかります。

アワ・キビの精白のしかた

- ・アワ・キビの場合には通常の玄米精白と同じ要領で、抵抗をかけて運転を行ってください。ただし、除糠網(精米金網)はアワ用の専用金網を取り付けて作業を行ってください。

その他注意事項

注意1	機械が新しいときは抵抗ははじめ「0」からスタートしてください。循環しはじめて5～10分頃の糠立つ具合をみて、抵抗を徐々に加える。抵抗メーターグリーンゾーン左側であわせる。
-----	---

注意2	新米時期や軟質米、モチ米などのご使用で、タンク内又は本機内で米づまり又はムラ搗が発生することがありますが、その場合は、下記のようにしてください。
-----	--

- (1) 抵抗ハンドルを「0」にする。
- (2) ハンドル(供給口)を全開にする。
- (3) 排出シャッターを一度開いて、循環して流れる部分や抵抗をかける部分等のツマリが発生したところを一度運転をとめて(本機の電源プラグをコンセントから抜いてから)、ツマリのある所を棒等を使って充分ほぐしてから、精米を再開してください。

次に精米する場合は、次の手順で行なってください。

- (1) ハンドル(供給口)を全開にする。
- (2) 抵抗「0」からスタートして徐々に、抵抗を加える。
- (3) 機械が新しい場合は、抵抗「0」～「1」であっても精米できる場合(米によっては)があります。

3. 運転方法

3-3 運転の仕方(2)



注意

作業を行なう場合、身の回りには充分気を配り、可動部には絶対に接触しないようにしてください。安全上支障をきたす場合があります。

その他注意事項

注意3

精白運転中に抵抗メーターグリーンゾーンが右側をオーバーするときは、必ず抵抗を1山または1目盛弱くして、グリーンゾーン右側をオーバーしないようにご注意ください。

注意4

粳づき精米の注意

- (1) 初め抵抗は弱め(抵抗メーターグリーンゾーン左側)にしてください。
- (2) 脱ぷが早すぎて供給口につまるときは、一度抵抗メーターを上げて除糠してください。
注意: 本機には米糠、粳がら等を除去する、吸引ファン装置は内蔵しておりませんので、粳の中に含まれるワラスベ等が若干残ることがあります。

注意5

本機は粳、玄米専用ですので、それ以外のものでは使用しないでください。やむを得ず麦等でご使用される場合は、クリーニング用としてご使用ください。



注意

運転中停電した場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。電源が復帰したときに本機が作動し、思わぬ事故を招くことがあります。

- ・また停電の際には、次のことを行なってください。
 - (1) シャッター(供給口)の位置を「閉」にしてください。



注意

運転終了後は、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。

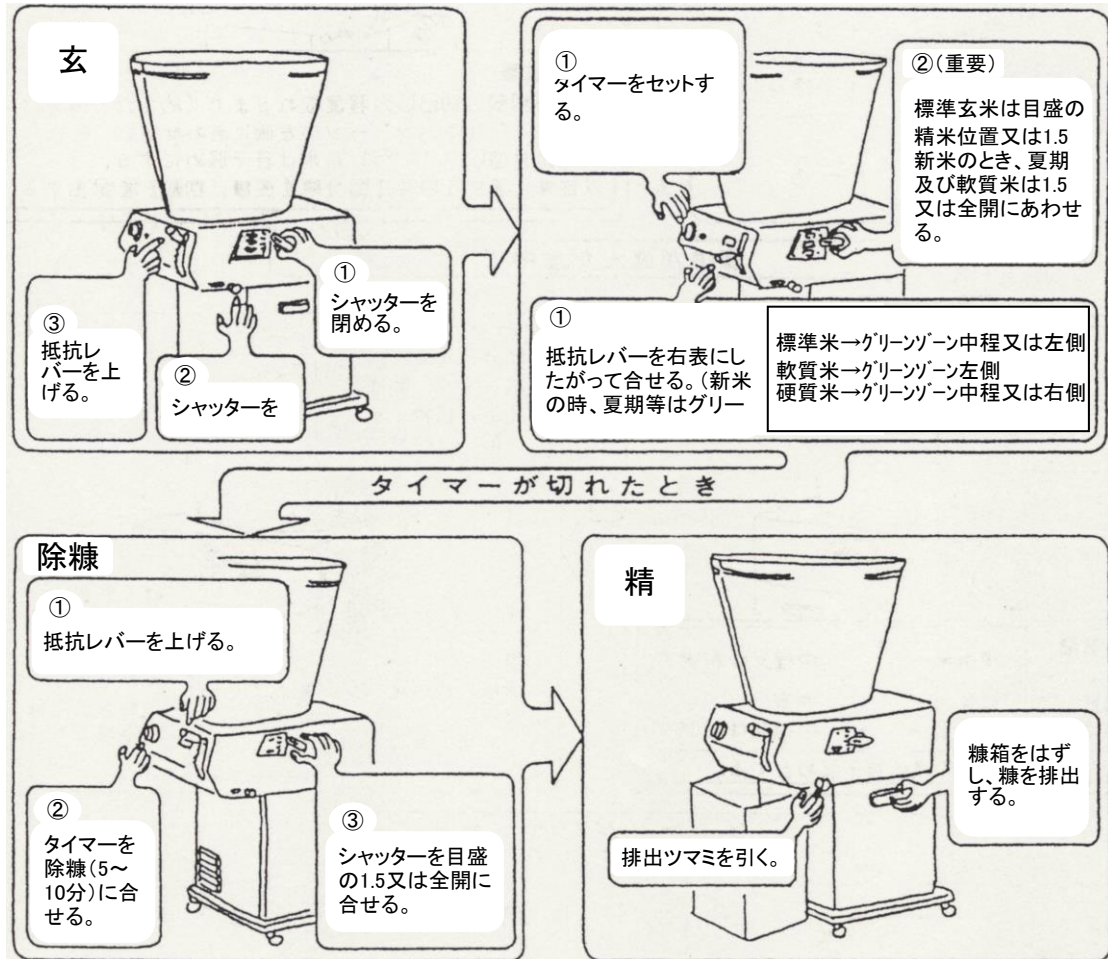
3. 運転方法

3-4 精米のしかた



注意

作業を行なう場合、身の回りには充分気を配り、可動部には絶対に接触しないようにしてください。安全上支障をきたす場合があります。



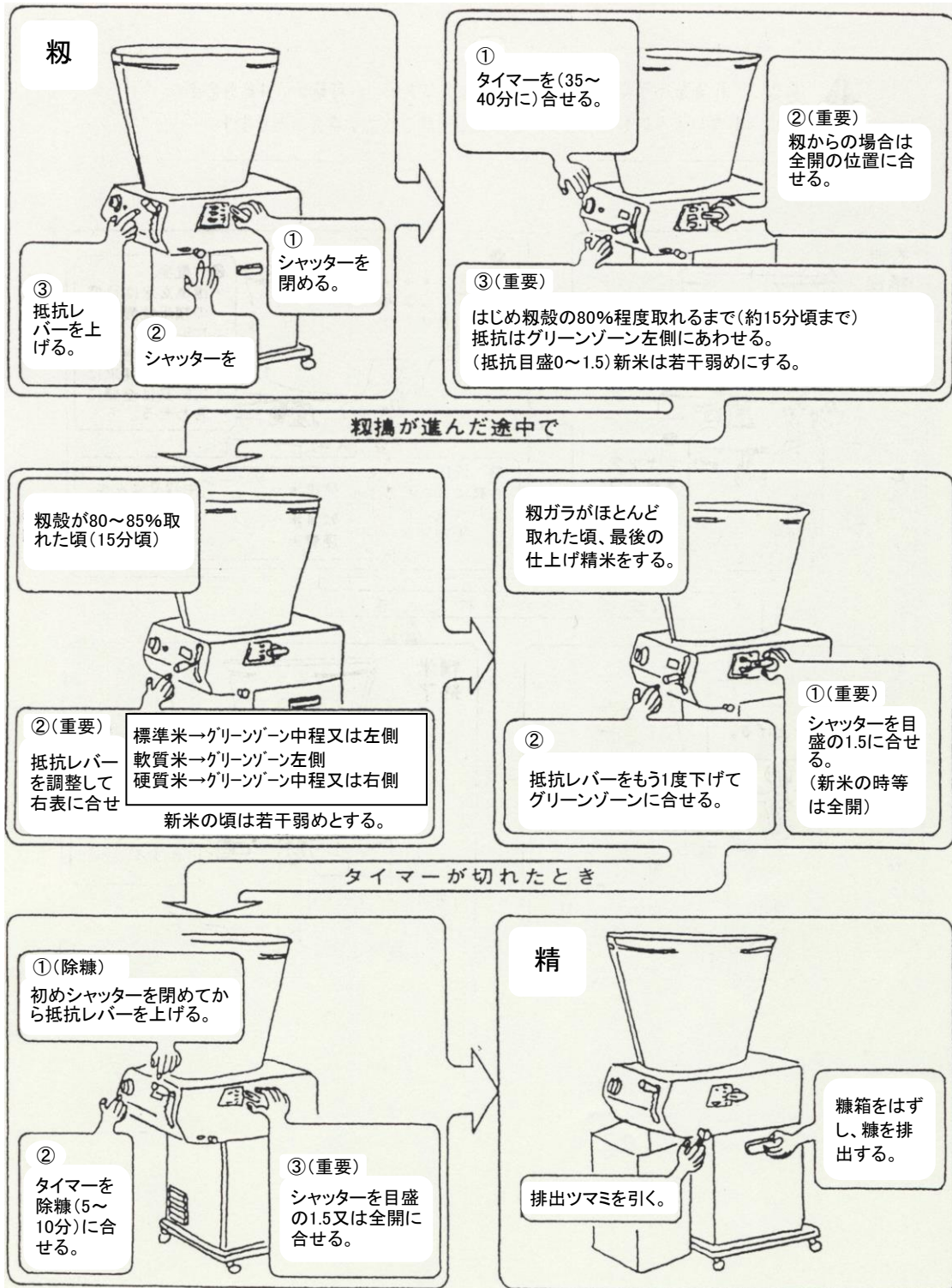
3. 運転方法

3-5 粳搗精白のしかた



注意

作業を行なう場合、身の回りには充分気を配り、可動部には絶対に接触しないようにしてください。安全上支障をきたす場合があります。



4.運転後の取扱い

4-1 点検、掃除



警告

調節・点検・掃除作業及び糠箱の取り出し、糠の排出等、扉やカバーの開閉を行なう場合は、必ず電源プラグを抜いてください。安全上支障をきたす場合があります。

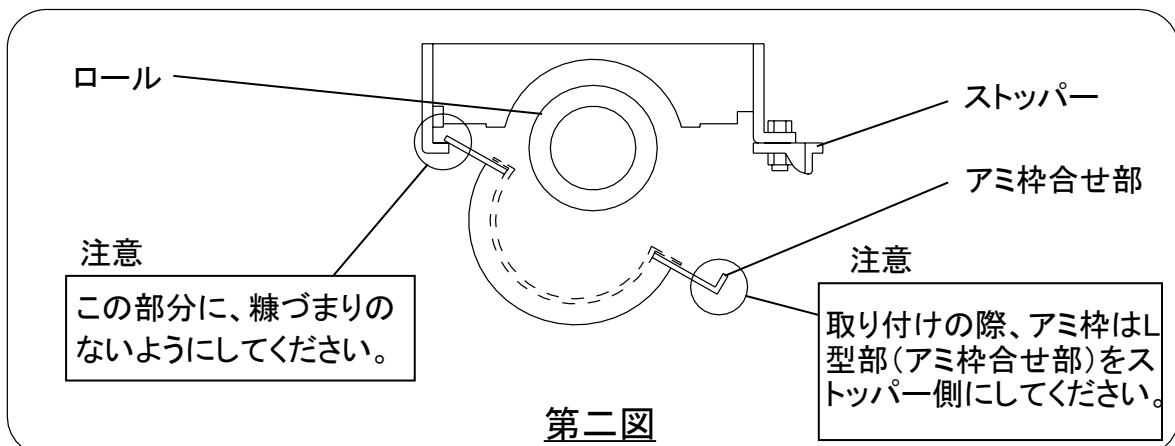
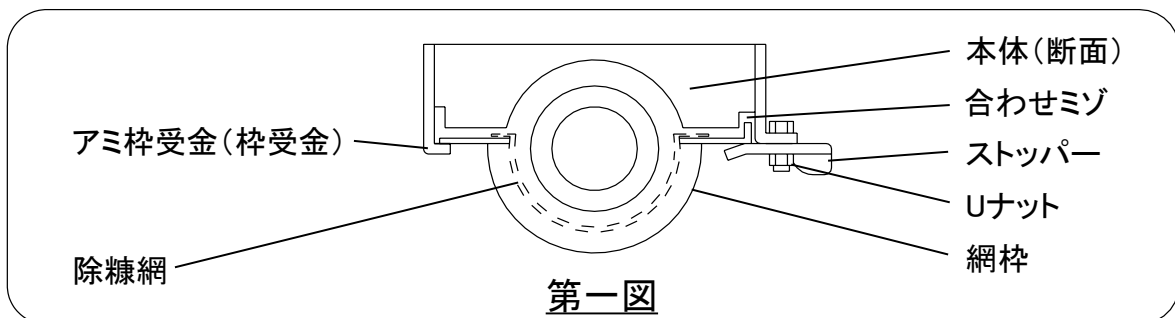
- ・糠箱にたまった糠は、精米するたびに排出してください。
- ・タンク内の糠は、乾いた布で拭いてください。
- ・除糠網についた糠、小米は時々除去してください。
- ・使用後は、タンク内に異物が入らないように、タンクカバーを本機にかぶせてください。

金網の掃除のしかた

- 1 除糠アミの取り外し方
 - 1) 糠箱を外しますと本体下面に除糠アミが、アミ枠に保持されストッパーにて固定されています。(第一図)
 - 2) 次にアミ枠のストッパーを手前左方向に回して、アミ枠と平行にします。(第一図→第二図)
 - 3) 次に第二図のように、アミ枠を回転させて、アミ枠受金の契合部より、アミ枠と除糠アミを同時にはずし、ブラシ等で除糠アミに付着した小米、糠等を除去してください。
- 2 除糠アミの取り付け方は上記と逆の手順で行なってください。アミ枠はストッパーで確実に固定してください。

注意: ストッパーのしまり具合を時々点検してください。ストッパーのしまりがゆるい場合はUナットをしめてください。

本体断面図(第一図, 第二図とも正面より見たもの)



5.不調な時の原因と対策

5-1 不調な時の原因と対策

状 態	原 因	対 策
タイマーを回しても機械が運転しない。	電源がきていない。	停電している。電力会社に通知。
	電源ヒューズが切れている。	ヒューズを交換する。
	精米機のブレーカーが働いている（作動している）	ブレーカーの働いた原因を取り除いてからブレーカーの赤いボタンを押す。 （注意：赤いボタンは2秒以上押し続けられないでください。）
	コードの断線。	断線コードを取り替える。
精米時間が長くかかる。	硬質米（過乾燥米）である。 抵抗が弱い。	ハンドル（供給口）を精米位置に合わせて抵抗を強くする。 抵抗メーターのグリーンゾーン右側又は中程に合せる。
玄米精白のとき、除糠アミに糠が固着する。	ハンドル（供給口）の開けすぎ。 抵抗が弱い。	ハンドル（供給口）を精米位置に合わせて抵抗を強くする。 抵抗メーターのグリーンゾーン右側に合せる。
	玄米水分が適正でない。 （過乾燥米である）	玄米水分をできるだけ14～15%に調整する。
	糠箱に糠が満タンになっている。	満タンの糠を排出する。
	除糠アミに小米等がつまっている。	除糠アミを掃除して小米等を取り除く。
ムラ搗、片流れが生じる。	張り込み量が多い。	タンク張り込み量は正確に。 （粳20kg、玄米30kgまで）
	機体が傾いている。	機体を水平に据え付ける。
	タンク内面に油等が付着している。	タンク内面を布切れできれいにふく。 糠などでこする。
	タンク内に抵抗となるキズがある。	タンクの交換を要する。
ブレーカーが働く。	抵抗が強すぎる。	新米のときや軟質米（高水分米）のときは特に抵抗を半～1目盛弱くして、グリーンゾーン左側に合せてください。
	他の单相モーター付機械や電熱器等が働いている。	消費電力の大きい電気製品との同時使用を避ける。
	配線が不適正。	適正配線されたコンセントへ直接プラグを接続する。
	コードリールを使用している。 （特に、巻いたまま使用している。）	やむを得ずコードリールを使用する場合は20A以上のものを必ずのばして使用してください。また10m以上のものは使用しないでください。
碎米が多く出る。	抵抗が強すぎる。	抵抗を半～1目盛弱くする。
	粳、玄米に碎米や銅割れ米がまじっている。	抵抗を少し弱めて、碎米の増加を防止する。

保証規定

1.保証期間

納入日より起算して満1ヶ年といたします。
但し業務用は3ヶ月といたします。
(保証期間が過ぎると総て有償となります。)

2.保証内容

保証期間に於いて、本機を構成する部品、材料等に、設計製作上の欠陥があらわれ、弊社がこの欠陥を認められた場合に限り、弊社特約販売店または指定サービス工場で当該部品の取り替え、または修理を無料で行います。

3.適用除外

保証期間内でも、次の場合には保証いたしません。
(1)使用上、並びに取扱上の不注意、過失、点検不備によって、故障が生じた場合。

- (2)弊社が規定する仕様の限度を超えて使用し故障した場合。
- (3)弊社が認めない改造変更が原因となって故障した場合。
- (4)弊社純正部品以外の部品使用が原因で故障した場合。
- (5)弊社特約販売店、または弊社指定サービス工場以外で修理され、故障した場合。
- (6)故障判定資料の不十分なものおよび損傷部品を紛失された場合。(故障交換部品はクレーム判定完了まで保管して下さい。)
- (7)本書のご提示がない場合。
- (8)本書に、購入日(年月日)・購入先(販売店名及び農協名)の記入がない場合、あるいは文字を書き換えられた場合。

購入年月日	平成	年	月	日
購入先 (販売店及び農協)				



◎この取扱説明書を熟読され充分理解された上で、本機の操作及び保守・点検を行って下さい。

◎この取扱説明書を本機の操作及び保守・点検を行う場合にいつでも見られるように大切に保管して下さい。

●お問合せは、ご購入先あるいは弊社の出張所、又は本社へ

マルマス機械株式会社

本社・工場 富山県中新川郡上市町若杉2
新潟工場 新潟県燕市小池5212-3
札幌出張所 札幌市北区篠路2条5-16-17
関東出張所 埼玉県羽生市上新郷6137-21
広島出張所 広島市安佐南区西原2丁目24-26
福岡出張所 福岡市東区和白丘1丁目7番3号
熊本出張所 熊本市富合町廻江846-1
<ホームページ> <http://www.marumasu.co.jp>

TEL 076-472-2233(代)
TEL 0256-66-2411~2
TEL 011-771-5357
TEL・FAX 0485-61-1566
TEL・FAX 082-573-7857
TEL・FAX 092-606-3293
TEL・FAX 096-320-4973
<e-mail> mill_star@marumasu.co.jp